

平成28年度 【 学園研究費助成金< B > 】 研究成果報告書

学部名 文化情報学部

フリガナ アベ ジュンイチロウ
氏名 阿部 純一郎

研究期間 平成28年度

研究課題名 <持続可能な観光>を支える観光人材の育成——小笠原諸島父島の自然保護活動に関する現地調査を通して

研究組織

	氏名	学部	職位
研究代表者	阿部純一郎	文化情報	准教授
研究分担者			
研究分担者			

1. 本研究開始の背景や目的等 (200字～300字程度で記述)

本研究の目的は、本学部の観光教育プログラムの一環として、世界自然遺産・小笠原諸島のエコツアーリズム活動や外来種対策について学ぶ調査合宿を実施し、日本の遺産管理の現状・課題について学生の理解力を深めることにある。小笠原諸島は、日本のエコツアーリズムの発祥地として、「自然保護」と「観光開発」の両立に向けた先駆的な取り組みを行ってきた。特に外来種の侵入や観光客の急増が生態系に与える負のインパクトを抑えるため、<官>（環境省、林野庁、東京都、小笠原村）と<民>（地元の観光業界やNPO団体等）が連携して、様々な利用ルールを定めた自然保護地域の設定、ネイチャーガイド制度の導入、外来種の捕獲・駆除等の対策を講じてきた。本年度は、過去2年間の小笠原自然文化研究所への調査を踏まえて、行政による保全活動の実態を把握するため、東京都自然保護指導員（都レンジャー）と小笠原支庁土木課自然環境担当者へのヒアリング調査を実施した。

2. 研究の推進方策 (300字程度で記述)

本年度のプログラムは、以下の3つの内容から構成される。

- ①事前勉強会と調査計画の策定：調査対象の選定は、引率教員である報告者が現地関係機関と交渉しつつ進めたが、参加学生には（1）小笠原の基本情報や渡航上の注意について学ぶ勉強会に参加すること、（2）行政報告書や先行研究をまとめ、その要点を発表すること、（3）事前勉強会を踏まえて調査対象への質問項目を作成することを義務付けた。
- ②体験型プログラムの実施：地元関係者へのインタビュー調査にくわえ、島の生態系の価値や保全活動の実態をより深く理解するため、現地のネイチャーガイドの説明を受けながら各種のエコツアーに参加した。
- ③学外での研究発表と調査報告書の作成：調査後、参加学生は調査結果の分析と追加調査をすすめ、他大学合同の研究発表会で報告した。また最終的に、調査報告書を作成した。

3. 研究成果の概要 (600字～800字程度で記述)

現地機関との連絡調整は、報告者と㈱小笠原ツーリストを中心にすすめ、小笠原村観光局、小笠原村産業観光課の関係者にも適宜ご協力いただいた。参加学生は、報告者が担当する「卒業研究指導1」を中心に、計9名である。

参加者は事前勉強会(2016年8月29日)への参加に加え、小笠原村観光局主催の観光PRイベント(2016年8月26日)にも運営スタッフとして参加し、小笠原への理解を深めた。学生のアンケートによると、イベント運営を通して地元関係者と深く関わった経験は、その後の研究発表や報告書作成に真剣に向き合うモチベーションにつながったようである。

調査合宿は、小笠原諸島の父島にて5泊6日(2016年9月14日～19日)にわたり実施した。現地では4つの体験プログラム(①都レンジャー、小笠原支庁関係者へのヒアリング調査、②生態系保護地域でのエコツアー体験、③小笠原海洋センターでのウミガメ飼育体験、④海洋ツアー体験)を実施した。例年、船酔いなどの体調不良を訴える学生がいるが、本年度はそのような声はみられず、怪我もなく無事プログラムを終了することができた。

調査後は、報告者の「卒業研究指導1」の授業を利用して、調査結果の分析と追加調査をすすめ、第10回社会調査インターカレッジ発表会(2016年10月22日、於：岐阜大学)で研究成果を発表した(研究成果①)。また、発表会での質疑・コメントを踏まえて、小笠原諸島の自然遺産管理の実践と課題について、都レンジャーの活動を中心にまとめた調査報告書を作成した(研究成果②)。

4. キーワード (本研究のキーワードを1項目以上8項目以内で記載)

①観光人材育成	②アクティブラーニング	③産学官連携	④世界遺産管理
⑤持続可能性	⑥	⑦	⑧

5. 研究成果及び今後の展望 (公開した研究成果、今後の研究成果公開予定・方法等について記載すること。既に公開したものについては次の通り記載すること。著書は、著者名、書名、頁数、発行年月日、出版社名を記載。論文は、著書名、題名、掲載誌名、発行年、巻・号・頁を記載。学会発表は発表者名、発表標題、学会名、発表年月日を記載。著者名、発表者名が多い場合には主な者を記載し、他〇名等で省略可。発表数が多い場合には代表的なもののみ数件を記載。)

<研究発表>

①神谷奈佑・川本祐菜・小林奈央・中西芽衣、中村真望子・村井志帆・若松紋巳、「世界遺産小笠原諸島の自然保護活動——都レンジャーの活動に注目して」、第10回社会調査インターカレッジ発表会、2015年10月22日、岐阜大学

<報告書>

②椋山女学園大学文化情報学部阿部研究室、2017年1月、『2016年度小笠原諸島調査報告書世界遺産小笠原諸島の自然保護活動——都レンジャーの活動に注目して』、椋山女学園大学文化情報学部阿部研究室、総23頁。